

日本国際経済学会第65回全国大会
(2006年10月14-15日、名古屋大学)

「垂直的・水平的産業内貿易とその決定要因：日本のケース」

愛知大学経営学部

藤井孝宗*

2006年8月

要旨

産業内貿易の発生要因については、これまで多数の理論研究によって様々な説明がなされてきた。理論文脈によると、産業内貿易は垂直的産業内貿易と水平的産業内貿易の2つに大別することができ、それぞれその原因が大きく異なる。理論的インプリケーションがもし正しいならば、生産のフラグメンテーションや要素集約度の差は垂直的産業内貿易を、製品差別化や独占競争は水平的産業内貿易を発生させる主要な要因となっているはずである。本論文では、日本の産業内貿易について垂直的・水平的産業内貿易を実際に計測し、そのパターンを明らかにするとともに、それぞれの産業内貿易の決定要因に関する実証分析を行い、理論的インプリケーションが実際に日本の産業内貿易に関して成り立っているかどうかについて分析を行った。分析の結果、日本の対世界の産業内貿易に関しては、理論モデルが説明するとおり垂直的産業内貿易は要素集約度の差が、水平的産業内貿易は独占競争の存在がその主要な発生要因となっていることが確認できた。

キーワード：垂直・水平的産業内貿易、独占競争、製品差別化、要素集約度、
フラグメンテーション

JEL Classification: F11, F12, F14

* 愛知大学経営学部助教授：4700296 愛知県西加茂郡三好町黒笹 370 tel: 0561-36-1119 ext.8602, fax: 0561-36-5553, mail: tkfujii@vega.aichi-u.ac.jp